

第72回 埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和5年4月21日（金）17：00～18：30

2. 会場：庁議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

池田 一義	一般社団法人埼玉県商工会議所連合会	会長
岡部 信彦	川崎市健康安全研究所	所長
金井 忠男	埼玉県医師会	会長
川名 明彦	防衛医科大学校	教授
小谷野 和博	埼玉県中小企業団体中央会	会長
近藤 嘉	日本労働組合総連合会埼玉県連合会	会長
坂木 晴世	国際医療福祉大学大学院	准教授
讚井 將満	自治医科大学附属さいたま医療センター	副センター長
竹田 晋浩	かわぐち心臓呼吸器病院	理事長・院長
松田 久美子	埼玉県看護協会	会長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター	教授

4. 県側参加者

大野 元裕	知事
高田 直芳	教育長
犬飼 典久	危機管理防災部長
金子 直史	福祉部長
表 久仁和	保健医療部長
本多 麻夫	保健医療部 参事
目良 聡	産業労働部長
岸本 剛	衛生研究所 副所長
山口 隆司	感染症対策課長

5. 主な意見

ア 埼玉県の対応について（レベル分類）

○ レベル分類については、レベル1を維持する。（一同）

【県の対応】

- 埼玉県のレベル分類は、「レベル1」とする。

イ 埼玉県の対応について（ゲノムなどの感染動向の現状や今後の見込み）

○ 今後サーベイランスの精度が少し落ちてくるが、定点観測でかなり代用できることが推定される。今後も定点観測によって流行の予兆などを早期に掴んで対策につなげていただきたい。（川名委員）

○ 死亡者数や重症者数については、把握しにくくなるが、法律で定められている報告とは別にサンプリングでもよいのでしっかり把握していただきたい。（岡部委員）

○ 世界に比べ日本人、特に高齢者はN抗体の陽性率が低いので、ワクチン接種は必要であり、引き続き啓発いただきたい。（岡部委員、川名委員、竹田委員）

【県の対応】

- 感染動向に関するデータについては、多方面にお願い・協力もして、一定程度の数字をもらえるように工夫したい。
- ワクチン接種について、引き続き広報していく。

ウ 埼玉県の対応について（5類移行計画）

○ 日本の医療機関は急性期病院を含めて9割方ベッドが埋まっており空きがない。移行計画にある病床数の確保は、強制力がない中でのお願いであり難しいと思う。（光武委員）

○ 脳卒中や心筋梗塞などの患者が救急で運ばれ、コロナであった場合、その患者をどこで診るのかという体制を構築しておくことが必要である。（光武委員）

○ ワクチン不要とWHOが言っているといったメディアもあるが、WHOはその国々のリソースやワクチンの準備状況等を考えて予算を確保し、ワクチンを配布している。国ごとの諸事情により、優先内容を考慮するものであり、ワクチンはいらないとは言っていない。誤解を生じさせないように、きちんと説明を繰り返ししていく必要がある（岡部委員、光武委員）

【県の対応】

- 医療機関の御意見を伺い、できる対策を検討し対応を図っていく。今後、実際に今確保している病床が本当に機能するかどうかを含め

て、改めて5月8日以降に報告する。

- ワクチン接種について、適切に広報していく。

エ 埼玉県に対応について（5類移行後の県立学校の対応）

- 子供のデータをやはりきちんと作らなくてはいけない。研究ベースでもよいので、しっかりエビデンスを求める必要があるだろう。（岡部委員）

【県に対応】

- 文科省の通知に則ってしっかり対応していく。